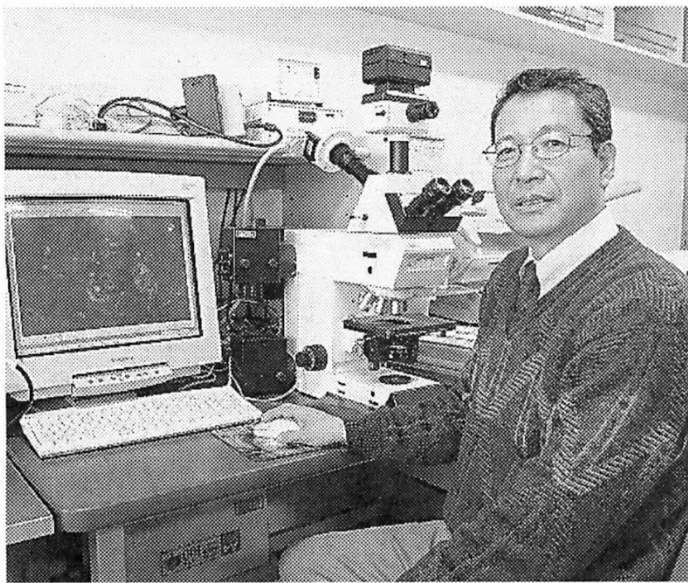


認知症理解とケア 専門家集め研究会

群馬大教授 山口晴保さん(54)



認知症への理解を進め、より良い治療やケアのやり方を広めようと昨年12月、医師や看護師、社会福祉士、介護支援専門員ら多職種の専門家を集めた研究会「ぐんま認知症アカデミー」を設立

した。リハビリで症状の進行を遅らせたり、機能を回復したりできないという研究報告が相次ぐなか、「良いケアとは、その人の能力をいかに引き出すか。その大切さを知ってほしい」と話す。

ひと模様

アルツハイマー病の発生源など、認知症にかかわる研究を続ける一方、地域でのリハビリ支援のネットワークづくりにもかかわってきた。これまで医療現場では認知症の原因への関心が高い一方、治療では徘徊などの行動を抑えるために副作用のある薬を使いがちだったという。アルツハイマー病や脳血管性認知症など、原因によって対処法は変わるのに、ケアの現場では必ずしも意識されていなかった。研究会はその職種の壁を

乗り越える試みだ。認知症の脳を活性化するために、楽しく脳を使う大切さを強調する。例えばほめることでやる気を引き出し、コミュニケーション

北関東3県の 魅力を再発見

県庁でフェア

「北関東3県の魅力再発見フェア」が県庁1階の県民ホールで開かれていた。北関東自動車道の全線開通を控え、群馬・茨城・栃木3県が一緒に地域活性化をしようとして、3県でつくる広域連携推進協議会などが主催。29日まで。

会場には水戸特産の納豆や梅の菓子、県産の焼きまんじゅうや水沢うどんなど各県自慢の品や、温泉・スキー場の紹介パンフレットが並ぶ。

北関東道は高崎市から茨城県ひたちなか市まで延長約150キロで、3県

ーションをとることで安心感を与えられる。洗濯板など古い道具の使い方などを説明してもらったことで、生きがいをもってもらうことができ、効果が

上がるという。「認知症があっても楽しく生きがいをもって過ごせるように」。目指すのはそういう環境づくりだ。



の主要都市と常陸那珂港を結び、群馬にとつては「海への玄関口」の役割が期待される。

24日のオープニングセレモニーで、栃木県の菅沼輝男・観光立県担当参

事は「遠くからの旅行者は鬼怒川で1泊し、草津で1泊して北関東の旅を楽しんでいる。高速道開通を機に、隣同士もつと連携して存在をアピールしたい」と話した。